

「令和5年度を振り返り、令和6年度に向けての取組み」

理事長 水谷 博

令和5年度を振り返ると、令和2年1月に発生した新型コロナウイルス感染症が令和5年5月に第5類感染症に変更されたが、**神久呂の園**ではコロナの影響により令和5年3月末時点で定員80名のところ入所者が65名（81%）と開設以来最少となり、その後新規入所の受入に努め、令和5年8月になってようやく入所率95%を確保できたが、ショートステイ及びデイサービスも同様に利用者の大幅な減少により、令和4年度から5年度の施設の収支状況は大変厳しいものとなった。

こども園では、全国各地での介護事故等が報道される中で、保育士等に対する皆様のご意見を真摯に受け止め、遠淡海会では施設での日々の保育の在り方について、保育計画やマニュアルの見直し、職員研修の充実等を施設全体で取り組み、特に職員の意識改革・啓発に努めている。また、保護者の皆様とのコミュニケーションに努め、毎日の送迎時に保護者の皆様へ積極的に声掛けを行うとともに、園便り、連絡帳、ホームページ等を通じて子ども達の日々の園での様子を積極的にお知らせし、保護者の皆様に信頼される園づくりに努めている。

乳児院では「新しい社会的養護ビジョン」で示された里親による養育の推進への対応を進める一方で、乳児院の多機能化への取組として平成2年度から開始した育児指導機能強化事業として、かもっこお出かけ広場、親子運動遊び、ベビーマッサージなど幼稚園入園前の乳幼児の居場所づくりの在宅支援も行い、お母さん方からも好評を得ている。

児童発達支援事業所ふぁーろは開設3年目となり、和合こども園併設による保育園児とのインクルーシブな療育とともに、他の保育園等との並行通園や親子グループ活動などの家族支援にも積極的に取り組んでいる。

令和6年度は、昭和49年に遠淡海会が設立後50周年を迎える。これまで支えていただいた行政、地域・ご利用者等の皆様のご協力や法人諸先輩方々のご功績に感謝するとともに、私たちは法人の今後の更なる発展の為努めていきたい。

令和6年度については、まずは元日に発生した能登半島地震で被災した皆様に心からお見舞い申し上げます。同時に、私たち自らの課題として、東南海地震や近年発生している豪雨や台風等の災害から施設ご利用者の安全と生命を守るための対策の見直しを法人全体で早急に行っていく。

令和6年度の法人の課題として、

第1に、福祉人材の確保に取り組んでいく。介護、保育とも職員の確保は喫緊の課題であり、外国人介護職員等を含め職員の人材確保と育成に取り組んでいく。そのためには

第2に、職員の働きやすい職場環境づくりの為、公休日等の増加や年次有給休暇を取りやすい環境づくりや柔軟な勤務時間等の導入に取り組んでいく。また、日々の業務の見直しを行い、①ICTの導入による職員の負担軽減、②業務改善によるムリ・ムダ・ムラの解消、③チームケアと職員間の情報共有の効率化、④職員の専門性を高めるための研修への積極的参加（WEB研修の活用）。これらにより、福祉サービスにおける「生産性の向上」を高め、介護や福祉の分野で質の高いケアを提供することを目指していきたい。



浜松乳児院園庭の八重桜